とうきょう　すくわくプログラム
2024年度活動報告書
板橋雲母保育園　東武練馬

テーマ【　光　】

設定した理由・背景

保育室内の蛍光灯が切れる前のチカチカした様子や、やがて暗くなってしまった様子を見て不思議そうにしていたり、新しく蛍光灯を交換し、再び点灯したときの子どもたちがの表情がとてもいきいきしていたので、光についての興味を引き出していきたいと考えた。

用意した環境設定

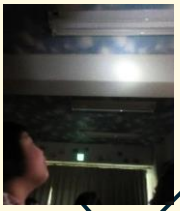
・室内では懐中電灯を使用。室内のカーテンを閉め、電気を暗くして行う。屋外では太陽の光を活用して探求活動を行う。
・使用した物：スマートフォン、SDカード、ケース、ストラップ、スクリーン、カラーセロファン、ライトテーブル、懐中電灯、水槽

活動のあゆみ

＜探求活動１回目＞
午後の設定保育時に「光」について初回の導入を行う。
＜探求活動２回目＞
午前の戸外活動時に太陽光とカラーセロファンを使った探求活動を行う。
＜探索活動3回目＞
午前の室内活動で懐中電灯を使用し、「光」と「影」についての探求活動を行う。

❀探究活動の実績❀

①どんな問いかけから始めましたか？
→「色」に関する絵本を導入で使用。「おひさま」のページから太陽はどんな風に見えるか子どもたちに問いかけてみた。
②子どもたちの反応とそれに対して保育者側から行った声かけ
→「ぴかぴかしてる」「まぶしい」と声が挙がり、「太陽のほかに光っているもの、ぴかぴかしているものはお部屋の中にあるかな？」と問うと蛍光灯を指差し「でんき！」と答える様子が見られた。「これから毎日の遊びの中で光っている物をたくさん見つけてみようね」とお話をした。
③活動中の子どもたちの姿・声、
→室内の電気を消すと「くらいね」何色に見えるか問うと「くろ」「まっくろ」電気をつけると「あかるい」色を問うと「しろ」「きいろ」と答えていた。　影絵では自分で選んだペープサートを影にして、「ハートだ」「〇〇ちゃんの手、大きい」と驚きやワクワクした表情がたくさん見られた。
④終わりの時期の姿・まとめ
→室内が暗くなる事を怖がっていた子どももいたが、終わりの頃には活き活きした表情で探究活動を楽しめるようになったり、戸外ではまた違った光の見え方が魅力的に見え、普段の活動よりもじっくり集中して探求することができた。



光についての導入をしました。懐中電灯のみの光とカラーセロファンを当てて色が変わる様子に子どもたちは驚いていました。

紙皿にカラーセロファンを貼付け、太陽の光でどのように見えるかという活動を行いました。

室内で懐中電灯の光を使い、光と影についての探求を行いました。

まとめ

「光」というテーマで探究活動を行ってみたが、低年齢の子どもたちでも見た目の変化が分かりやすく、短期間であっても興味・関心を引き出せたのではないかと感じる。また職員にとっても、子どもたちの今まで見たことがない反応を引き出すことができ、保育における視野が広がったと実感している。次年度はプロジェクターを使った探究活動などを実施し、職員自らも探究する気持ちをもっと掘り下げ、充実した一年にしていきたい。